資料３

大（応）神塚古墳（寒川町№8 遺跡）保存目的のための調査計画

１．現状

大（応）神塚古墳は、寒川町指定重要文化財第 19 号であり、町内唯一の墳丘を保った古墳である。明治 41 年（1908）、東京帝国大学の坪井正五郎氏を中心とした発掘調査が実施された他は､昭和 57 年に神奈川県教育委員会において測量調査を実施したのみである。これらの調査から、前方後円墳であり、5 世紀ごろの造築であろうとされている。

しかし、明治期の調査であり、遺物の出土状況、古墳の範囲や周溝の有無、構築の年代や方法など不明な点が多いのが現状である。

２．目的

形態や、範囲、構築年代などの古墳の性格を把握し、今後の保存方法検討のための基礎資料とする。

３．調査体制

主催：寒川町教育委員会
協力：（公財）かながわ考古学財団
作業委託業者：年度ごとの落札業者とする

４．調査計画

１）墳丘測量調査（平成 28 年度）
20 ㎝、もしくは 25 ㎝間隔の等高線図と共に、墳丘の状況をより分かりやすくするため傾斜変換線等も用いて、デジタル測量による墳丘測量図を作成する。

２）複数の有識者に調査の方針等について、随時意見をいただく。
（平成 28 年度有識者選定、29 年度以降実施）

３）トレンチによる試掘調査 2 月～3 月にかけて実施予定（平成 29 年度～令和 4 年度）
墳丘測量図作成後、主軸及び副軸を設定し、次のような場所にトレンチを設定し、表面及び断面観察等を交えた調査を実施する。

およその調査の手順は、墳丘の裾部分を中心にトレンチ調査をし、墳丘の形態と規模、周溝の有無を確定する。

次に、埋葬施設の存在を確認するためにトレンチを設定し、併せて墳丘の構築状態について調査する。

ただし、古墳の現況に応じ、調査可能な場所を選定し実施とする。

・墳丘規模の確認
・周溝の有無の確認
・墳丘構築状態確認
・主体部の構造確認

古墳築造の年代の把握のため、墳丘や周溝内のスコリアの分析を実施

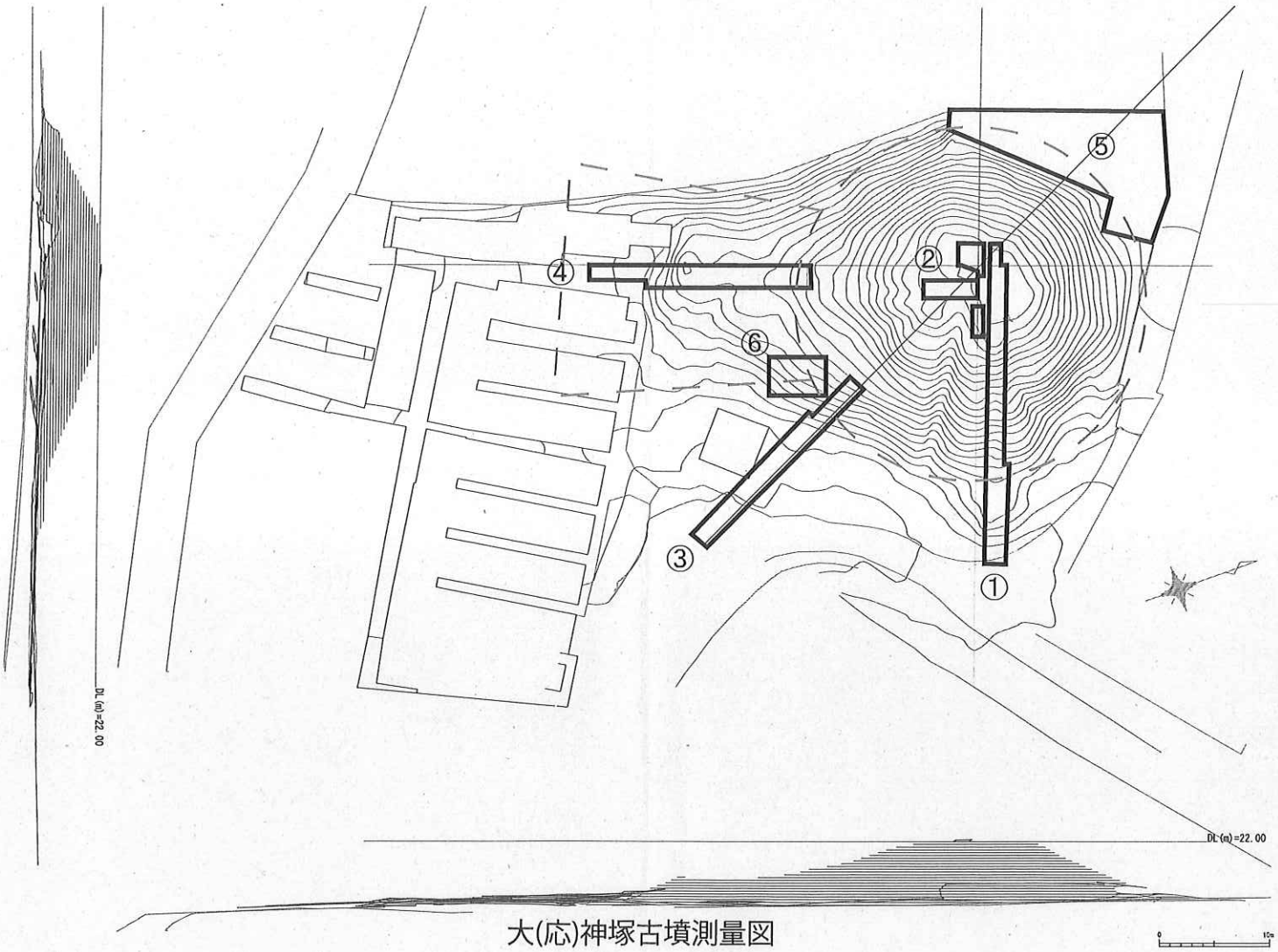
４）明治 41 年の発掘調査時に出土した遺物の再検証を行う。（実測・分析等）

５）整理作業

６）報告書刊行

＊年に１～２本のトレンチ調査を実施予定とし順次試掘調査を実施。同時に整理作業、過去の遺物の再検証を行い、調査終了後 2 年をめどに報告書を刊行する。調査箇所や調査内容、期間については有識者の意見を聞きながら必要に応じて変更していく。

大（応）神塚調査予定箇所



大(応)神塚古墳測量図

①平成 29 年度

②平成 30 年度

③令和元年度

④令和 2 年度

⑤令和 3 年度

⑥令和 4 年度

＊調査指導者の助言等により変更の可能性有